

本時のねらい

名詞の種類やはたらきについて、タブレットを使いながら主体的に調べ、対話的にまとめながら、理解を深める。

本時における1人1台端末の活用方法とそのねらい

・1人1台端末を活用し、「自分から知識を取りに行き、その知識を広げ、深めていく」ことをねらった。そのうえで、調べてもわからなかったことなどを他者とともに考える場面を設定し、対話的に文法知識を深めていくことをねらいとしている。

活用したICT機器・デジタル教材・コンテンツ等

・タブレット端末（iPad） ・ミライシード（オクリンク） ・Google クラスルーム・ブランククイズ

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT活用のポイント・工夫
導入 (7分)	○前時までの確認テスト（クラスルームを使用）に取り組む。 ○本時のめあて、学習課題を知る。	・クラスルーム内に前時の学習内容に関する課題をアップロードする。（選択式の課題を設定。採点・評価はスプレッドシートにて行う。）
展開 (36分)	○名詞の五つの種類の名称について、各自インターネットで調べ、ミライシード（オクリンク）のカードを完成させる。（個人活動） ○班で分担して、五つある名詞のうちの一つについて、「名詞の働き」、「その名詞の例」などについて、詳しく調べ、1人1枚名詞の説明カードを作成する。（班活動） ○分担した自分のカードを班の友達に送り、班で5つの名詞カードを完成させ、提出BOXに送信する。	・検索サイトへのアクセス方法がわからない生徒に関しては、授業者とICT支援員等で操作方法等を随時フォローし、意欲的に取り組むよう配慮する。 ・活動前に「授業に関係ないことを検索しない」「端末で学習活動と違うことをしない」などのルール確認を行う。
まとめ (7分)	○本時の学習内容を確認するための「まとめ小テスト」と「本時のふりかえり」を、ミライシード（オクリンク）にて取り組み、提出BOXに送信する。	・小テストで、本時の到達度を確認し、次回以降の授業における指導に活かす評価として扱う。

1人1台端末を活用した活動の様子



写真1：名詞の5つの種類の名称を役割分担して完成させる。ミライシードの生徒画面。



写真2：班活動：名詞カードの作成。働きの説明や例などを交流し、学びを深めている場面。



写真3：確認問題とふりかえりを記入し、提出ボックスに送信している場面。

児童生徒の反応や変容

・文法の単元においても、主体的に調べ、対話的に深めながら、知識を得ることができていた。
・「知っていることを自分なりにまとめ、相手に伝わりやすいものに仕上げていく」活動を通して、各生徒の学習状況に応じて取り組むことができていた。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

・文法の学習において、知識を与えるだけでは、生徒の意欲は高まりにくい。1人1台端末を活用することで、受動的な授業から、生徒自身が自分で調べ、生徒自身がねらいに迫っていくような授業スタイルに変えていくことができると考える。